

「血中 AMH 値によりグループ分けした症例における不妊治療成績の検討」

1. 研究の背景と目的

抗ミュラー管ホルモン (AMH) 値は、前胞状卵胞・小胞状卵胞の数を反映、卵巣予備能の評価に有用であると報告されています。AMH 値が低い場合は採卵数が減少し、AMH 値が高い場合には卵巣過剰刺激症候群 (OHSS) のリスクがあると報告されています。OHSS は不妊治療における卵巣刺激に伴う合併症であり、卵巣腫大、腹水貯留や血液濃縮を生じ、重症例では血栓症や肺水腫等を生じる可能性があります。このように AMH は不妊症患者さんを治療していく上で、とても有用な指標ですが、この高い・低いの基準値が未だに曖昧なままです。そこで、当院における不妊治療の成績を AMH 値で分類して検討し、治療の目安となる値を探ることを計画しています。

2. 研究対象者

2014年1月1日から2018年12月31日の間に、山口県立総合医療センターで、AMH 値測定を受けた後に不妊治療を行った患者さんです。

3. 研究デザイン

不妊治療成績、周産期成績について、診療録を用いて後方視的に検討します。

4. この研究に参加することの利益・不利益

本研究は既存情報を用いた研究であり、直接的な利益は生じません。また、研究対象者に対して介入を伴うことがないため不利益は生じません。ただし、個人が特定されることのないよう情報の取り扱いに配慮して行います。この研究成果により将来の医療の進歩に貢献できる可能性があります。

5. 同意と拒否

本研究の実施についての情報を山口県立総合医療センターのホームページに公開することにより、直接の説明や同意をいただく手続きに代えさせていただきます。対象者に含まれていると考えられ、本研究に同意いただけない方は、担当者まで御連絡ください。

6. 担当者

施設名: 山口県立総合医療センター (代表 : 0835-22-4411)

責任者: 産婦人科 副院長 中村康彦